



9



10



4



11



7



5



12



8



6



1



3



2



1 サギソウを植樹した三縄小学校の児童と阿波池田ライオンズクラブ会員および黒沢湿原を守ろう会の皆さん 2 市の花サギソウは白鷺が翼を広げて飛んでいるように見えることからこの名前がついた。例年7月下旬ごろから咲き始める 3 湿原内はチョウトンボをはじめ約50種類のトンボを見ることができる 4 サギソウが咲き始めた夏の黒沢湿原 5 展望台から望む黒沢湿原 6 落差約5mのたびの尻滝を間近に見ることができる 7 湿原中央部の池にはヒツジグサなど季節に応じて水生植物が生息している 8 湿原内を流れる小川には、ドジョウやメダカなどを水中生物を観察することができる 9 1950年代では水田であった黒沢湿原では腰まで沈む水田で田植えが行われていた(写真は読売新聞より) 10 10月第3週日曜日には黒沢湿原まつりが行われ、保存会による田植え踊りが披露されている 11 ゴールデンウィークに見頃を迎えるオンツツジ 12 黒沢活性化センターでは体験活動などを行うことができる

## そうだこの夏 黒沢湿原に行こう

四国の尾瀬 黒沢湿原  
かつては水田として利用

標高550mほどの高地にある黒沢湿原は、南北約2km、幅100〜300mの細長く入り組んだ形の沼沢盆地。多種多様な湿原植物が群生しており、豊かな自然を感じさせる景観から「四国の尾瀬」といわれています。

1965(昭和40)年に「黒沢湿原植物群落」として県の天然記念物に指定、環境省の「日本の重要湿地500」に選定されているほか、「日本湿原紀行訪ねてみたい41コース(日野東著)」の中でも四国を代表する湿原として紹介されています。

特に、7月下旬から可憐な花を咲かせるサギソウは愛好者が多く、毎年たくさんの方がその姿を見ようとこの地を訪れます。

かつては水田として利用されていましたが、もともと粘土層の上に水がたまり、火山灰や腐植土などが堆積してできた沼地で、深さも1m以上あることから、田植えには田ゲタや田船、竹いかだが使われていました。

現在はずべてが湿原植物やヨシの茂る湿原となり、自然を愛する地元の人々が集まり、黒沢の自然環境を保全しようと汗を流しています。

### 三縄小学校の児童がサギソウ苗を植樹

黒沢湿原のサギソウを守るうと6月6日、三縄小学校の児童16人が黒沢湿原を訪れ、560株の苗をサギソウ園に植えました。

この活動は、阿波池田ライオンズクラブの協力のもと、自然保護への関心や地元の方々との交流を図ろうと始まり今年で18回目。児童は2月に球根をポット苗に植え教室のベランダで育ててきました。この日は、会員らから指導を受けながら、15株ほどに成長した苗を一つ一つ丁寧にサギソウ園に植えていきました。植樹を終えた4年生の宮本虹空さんと高井夢叶さんは声を揃えて「毎日水やりをして育ててきました。白い立派な花を咲かせてほしい。家族で見に行きたい」と話し、花が咲く姿を心待ちにしています。

サギソウは例年、7月下旬頃から咲き始め、8月下旬まで見ることができます。貴重な植物や生き物が多く生息している黒沢湿原。ぜひこの夏訪れてみてはいかがでしょうか。

植物・トンボ観察会  
～植物の名前の由来を考えよう～

黒沢湿原には、生き物などの名前がついた植物が多くあります。サギソウ、ミミカキグサなど植物の名前の由来は？花や葉を観察して由来を考えます。夏休みの子どものための課題観察にもいいですよ。

**【日時】** 8月6日(日) 10時～  
**【場所】** 池田町湿川・黒沢湿原  
黒沢活性化センター前 林内作業場  
※参加費無料、弁当・飲み物持参  
**【お申し込み・お問い合わせ先】**  
黒沢湿原を守ろう会事務局(黒川)  
電話 090-7144-1799、ホームページ <http://kurozoumamorukai.web.fc2.com/>



ゆつくり観察して歩くと1時間30分ほどかかる湿原散策。見所は駐車場近くの小学生たちが植えたサギソウ園、そしてそのまま進んでいくとサギソウ、トキソウなど県の天然記念物に指定されている植物群落があります。また、湿原中央部の池には、多年生のスイレンで未の刻(14時)頃に花が咲くことからついたヒツジグサは、徳島県ではここにしかない花です。湿原全体が見渡せる展望台や涼を求めて、たびの尻滝に足を運んでみるのもお勧めです。

湿原に魅せられて

「雄大な景色を含めてこの雰囲気が好き」「四季を通じて一番きれいな時期はと聞かれますが、私が好きなのは8月のお盆過ぎぐらい。サギソウが終わる頃から、薄いピンクのサワヒヨドリなど多彩な花が咲き出します」そう話すのは、黒川アヤ子さん。「私にとって黒沢湿原ってどういう場所と考えると、主人が亡くなった後ということもあり、湿原に助けられた。何もかも忘れ



**内田 忠宏さん**  
黒沢湿原を守ろう会 会長  
湿原保護巡視員  
環境省自然公園指導員  
徳島県希少生物保護巡視員

**黒川 アヤ子さん**  
黒沢湿原を守ろう会  
事務局長  
湿原保護巡視員

**黒沢湿原を守ろう会**  
三好市から委託された湿原保護巡視活動や自然観察会などを通じて湿原保護に取り組んでいる。

この場所にしかない多様な生物が生息する黒沢湿原  
県下全体で絶滅危惧種の植物は約800種類ありますが、うち黒沢湿原にあるのは約50種類。その中でも、黒沢湿原にしかない植物はサギソウ、トキソウ、キセルアザミなど10数種類。また、トンボは約90種類のうち約50種類が黒沢のみに生息しています。遊歩道に沿って約3歳、

黒沢湿原の  
環境を未来へ

黒沢湿原を愛する方々による自然環境保全活動や地域のにぎわいづくり。湿原に魅せられ、取り組みを続ける皆さんに黒沢湿原が持つ魅力やそれぞれの思いを伺いました。

素晴らしい自然環境を後世に住民有志が「守ろう会」を結成  
黒沢湿原にはサギソウをはじめ貴重な植物やトンボ、水中生物などが生息しています。年間を通して観光客が訪れている傍ら、植物の盗掘やトンボ、ドジョウなどの無断捕獲、シカやイノシシによる被害などで荒廃が進んでいました。このような湿原の現状を憂い2013(平成25)年4月、湿原の生態系を守ろうと地元

有志により「黒沢湿原を守ろう会」が結成されました。「会員数は113名。三好市民の方が半数を占めています。が香川県や徳島市の方も参画しています。活動に携わりいる方からご意見をいただきました。生物多様性に富んだこの湿原は後世に伝えるべき場所です」そう話すのは、会の設立に尽力した内田忠宏さん。現在、守ろう会では、市から巡視活動の委託を受け、盗掘の監視やシカ・イノシシ被害の調査、サギソウ園の除草や観察会、来訪者の案内など年間を通して活動を行っています。



**黒沢湿原まつりで地域に賑わいを 今年10月15日開催**  
地域のつながりを深めるとともに黒沢湿原の魅力をもっと知ってもらおうと始めた黒沢湿原まつりも今年で24回目を迎えます。今年の開催は、10月15日(日)。マツタケが当たる宝探しやビンゴゲーム、黒沢湿原の昔に今に残す田植え踊りや各種バザー、餅投げなどを行います。メンバーの高齢化は進んでいますが、若い世代の方々や子どもたちと触れ合う機会をこれからも創っていきたいと思いますので、ぜひ黒沢湿原にお越しください。

**5月から見頃を迎えるオントツジを新たな観光資源に**  
ゴールデンウィーク頃に見頃を迎えるオントツジは、もともと湿原内にたくさん自生していましたが、雑木などにより成長や鑑賞が阻害されていました。市による間伐事業が始まったことなどにより景観が整備されつつあり、池の周りや野鳥観察小屋から展望台にかけて朱色に染まるオントツジはここにしかない財産です。今後、環境整備が進むと西日本一の景観になると思っています。5月第3週日曜日には黒沢大師まつりも開催していますので、ぜひお越しください。

